

みんなで歌おう

待ちに待った音楽発表会当日、会場は保護者、杉の子学習でいろいろなことを教えてくれた人など、たくさんの人で埋め尽くされました。やがて、全校児童549人が整列すると、ピアノの前奏に続いて、体育館いっぱいには児童たちのはつらつとした歌声が響き渡りました。

♪春を知らせるさくら道
全校児童が心を一つに、歌詞の一文一文に思いを込めて歌います。合唱が終わると会場からは割れんばかりの拍手。感動して涙を流す人もいます。児童たちの顔は、誇らしげにキラキラと輝いていました。

杉の子学習で児童たちに裂織を教えた南部裂織保存会の小林輝子会長は「南部裂織が児童たちに『たからもの』と認められました。こんなにうれしいことはありません」と目を潤ませました。

最後に総務委員の畑中常似くんが「『たからもの』は全校みんなで歌詞を考えて作った僕たちの歌です。僕たちはこれからもこの歌を『たからもの』にして頑張っていきます」とあいさつしました。

この歌は、6年生の卒業共同制作として同校に残され、記念行事などで歌い継がれていきます。



♪歌は、同校ホームページで聞くことができます（パソコンのみ）。
http://www.sanbongisyo-towada.jp/99_blank.html

小川紗彩さん
(6年・総務委員会委員長)



「杉の子学習では、十和田市ならではのものにたくさん触れることができました。この歌を地域のの人に知ってもらって、十和田市はいいところだという気持ちをもっと大きくなればいいと思います」



中村航大くん
(6年・総務委員会副委員長)

「歌を作ることで、十和田市のいいところを改めて考えることができました。十和田市は自然も豊かで地域の人たちも優しい。将来も、十和田市に住んで、よい良いまちにしていきたいです」

奉仕の心(志) 日本一

第一中学校

第一中学校（新戸部一弘校長）の日本一事業は、平成26年度から「奉仕の心(志) 日本一」を目指して学習活動を展開。テーマは、1年目の「あいさつ・清掃・親切」から始まり、「誰かのために・ふるさとのために」へと取り組みの広がりを見せていきます。

現在の3学年が1学年の時から、「ふるさと学習」が総合学習として始まりました。1学年時はふるさと調査、2学年時は修学旅行でのPRなどのプロジェクト活動、3学年時には、自分の進路や生き方の探究など3年間を通して、地域社会とのつながりの中で、将来の生き方について考えていきます。

ふるさと調査団出動

今年度、1学年は、青森市のファクトリーやアスパムなどを訪問し、「市や県の商品がどのように販売されているか」をテーマに調査。道の駅奥入瀬ろまんパークに対し、地元食材を使った新メニューやPOP広告で特産品をPRするなどの活性化の提言を行いました。

1・3学年は「未来への架け橋講

座」で、地元で活躍するさまざまな職種の人から仕事内容やふるさと貢献などについて話を聞き、将来の仕事への期待を膨らませました。

このほか多数生徒が「十和田湖マラソン大会」のボランティア活動に参加するなど、地域を学びの場として、さまざまな経験を重ねています。

アモーレ十和田湖プロジェクト

2学年は、修学旅行で本市のPR活動を行っています。今年度は、十和田湖を中心としたPRを行い、この活動を生徒たちは「アモーレ十和田湖プロジェクト」と名付けました。プロジェクトではまず、ヒメマス養殖場を見学したり、十和田湖畔の土産店の人や観光客にインタビューをしたりして、十和田湖の良いところやPRしたいことを考えました。

次に、PR活動で配布するポケットティッシュペーパーとポスターを制作しました。どちらも自分の選んだ写真に、魅力的なキャッチフレーズを考えて入れ、パソコンを使ってデザインしました。そして、他学年の生徒などを相手にグループでPRの模擬練習を行い、気付いた点を話してもらって改善していきました。

修学旅行初日の11月9日、2学年22人は、都内にある3つの本県アンテナショップ（あおもり北彩館、北

市内小・中学校が目指す日本一事業の取り組み 指導課 ☎ 2309

日本一事業は、各学校の創意工夫を生かした学校づくりに対して、その経費を負担し、日本一を目指した特色ある教育活動を推進することを目的として、平成26年度から始まりました。1校当たりの事業期間は3年です。

2年目(平成27年度開始)	三本木小	ふるさと力日本一の学校	3年目(平成26年度開始)	北園小	国際化に対応する学校日本一
	南小	日本一の ㊦とめあい ㊦かよく ㊦んな楽しい 学校		ちとせ小	心に響くいい声日本一
	東小	美しいあいさつ日本一の学校		西小	言葉を大切にする学校日本一
	藤坂小	ふるさとを愛する学校日本一		高清水小	俳句日本一 ～四季を感じて 五・七・五～
	洞内小	「ほうないの心」で、日本一ふるさとを大切にする学校		深持小	日本一本好きな子どもがあふれる学校
	松陽小	元気な学校日本一		下切田小	出会い、ふれ合い「自分に気づき将来をつくる」体験活動日本一の学校
	沢田小	郷土を愛する子ども日本一		四和小・中	こころの輝き日本一
	法奥小	郷土を愛する心日本一の学校		十和田中	日本一健康で前向きな生徒の育成
	十和田湖小	五感を使う心に残る感動体験日本一～十和田湖自然体験活動を中心に～		甲東中	表現力の豊かな学校日本一
	三本木中	おもてなし日本一の学校		大深内中	地域に貢献する学校日本一 ～駒踊りとボランティアを通して～
東中	学校行事と生徒会活動を基盤とした日本一の集団づくり	第一中	奉仕の心(志) 日本一		
切田中	未来世界の課題を解決する日本一の生徒				
十和田湖中	日本一地域に密着した学校 ～十和田湖と地域とともに～				

1校当たり3年間の事業費は、大規模校(300人以上)は100万円、中規模校(30人以上299人以下)は80万円、小規模校(29人以下)は60万円を上限としています。



ポスターを見せながらPR。見知らぬ人に声を掛けるのは勇気が必要です。

声を掛け、立ち止まって話を聞いてもらう。これが結構難しい

のプレミアムフード店、県特産品センター)に分かれて、観光冊子などを配布しながら、アンケート調査やこれまで学習してきた十和田湖やヒメマスの宣伝などを行いました。生徒はこの活動で、全国から見た本市の印象を肌で感じ、PRの大事さと難しさを体験しました。今年に入ってから生徒たちは、奥入瀬溪流や「十和田湖冬物語」を見学し、冬の観光について学んでいます。



折田瑛菜さん(あおもり北彩館)

「十和田湖に興味を持ってくれる人が多くてうれしかったです。また十和田湖の魅力伝える機会があったら、私と思う十和田湖について伝えたいです」



金澤未有さん(北のプレミアムフード店)

「最初は声を掛けるのが怖かったけど、だんだんと笑顔で大きな声でできるようになりました。バラ焼きを食べた人が来てくれました」



戸館悠斗さん(県特産品センター)

「十和田湖に来たことのない人や十和田湖冬物語を知らない人が多かったため、もっと十和田湖のことを広めたいと思いました」



配布した自作のポケットティッシュペーパー